

第4回サステナビリティ 実施報告書

オルネッライアとマッセートにおけるサステナビリティへの取り組み

自然への配慮、敬意、創造力 による未来へのアプローチ

オルネッライアとマッセートにおけるサステナビリティへの取り組み

環境・社会・経済の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

自然との共生と未来の持続可能性を追求する取り組み

最高経営責任者から のご挨拶



サステナビリティは、オルネッライアとマッセートの未来の中核戦略と考えています。

サステナビリティは、オルネッライアとマッセートが成長する上で、非常に重要な指標であり、当社のあらゆる活動に深く関わっています。自然資源を守るだけでなく、人々の生活の質を高め、地球規模の環境課題に責任を持ち、積極的に進めて行く、そんなサステナビリティの文化と未来を信じています。

2024年、二酸化炭素排出量と水資源の使用量を算出し、サステナビリティの戦略的な目標を設定しました。これは、当社での活動が気候や水資源に与える影響を測定し、削減するための重要な指標となります。単に環境への影響を最小限に抑えるだけでなく、気候変動の影響を予測し、予防するために、具体的で測定可能な活動に取り組みました。

二酸化炭素の排出量や水の使用量を正確に測定するために、高度なモニタリング・システムを導入し、革新的な技術を取り入れました。自然資源を最大限に有効活用するため、栽培手法も継続的に最適化しています。

第4回目となる本報告書により、当社がこれまで強力に進めてきた活動の成果を確認できます。これは、環境への負荷を減らし、各従業員の作業の質を高め、地域社会とのつながりを深めるため、社会的・経済的に取り組んできた軌跡でもあります。

サステナビリティとは、社会的に公正であり、人権を尊重し、当社を受け入れてくれている地域へ感謝と敬意を表わすことでもあります。この考えをもとに、日々、未来を見据えてブドウ栽培に取り組みながら、この土地の美しさと歴史を守り続けています。

オルネッライアとマッセートは、ボルゲリの地と深い絆で結ばれています。環境に配慮した農業の実践を通じて、絆が一層、深くなるよう努めています。当社の目標は、単にボルゲリの個性を表現する優れたワインを造ることだけではありません。持続可能で、環境に責任を持てる生産モデルの構築に貢献することも、重要な目標と考えています。

2024年度の活動報告書では、当社のサステナビリティへの取り組みを具体的に示すとともに、サステナビリティを当社の中核戦略として位置づけた将来の計画を明確に示すことを目的にしています。

日頃から情熱と献身をもってサステナビリティに取り組んでいる全ての皆さまに、心から感謝申し上げます。協力と努力を通じ、多くの人がサステナビリティの考えを共有し、具体的な価値となって表れると確信しています。

オルネッライア・マッセート最高経営責任者
ランベルト・フレスコバルディ



目次

1 活動の基本方針 P. 06

4 2025年までの目標の再評価 P. 31

2 2024年度の主な成果 P. 11

5 オルネッライア・マッセート
サステナビリティ委員会 P. 33

3 サステナビリティの基本方針 P. 17
環境的な基本方針 P. 19
社会的な基本方針 P. 29
経済的な基本方針 P. 30

活動の基本方針

1

多様性は、貴重で欠かすことのできない自然の資源です。

人の手で守り育まれた大地の恵みは、人の知恵と働きによって、自然を最も豊かに表現するものとなります。

当社は常に研究を重ね、人を尊重し、土地や地域社会への敬意を大切にしてきました。

敬意の輪

「研究」「共有」「尊敬」の価値

2024年、オルネッライアとマッセートは、地域社会、土地、環境に対して責任を持ち、持続可能で包括的な事業を全力で展開する方針を表明しました。また、文化的、社会的な活動にも積極的に取り組んでいます。当社は、地域社会の経済成長に貢献すると同時に、地域住民の幸福、循環型経済、環境保護を中心とした社会的、環境的な価値を追求しています。

基本方針を以下に示します。

- 目標達成には、環境、経済、社会の連携が不可欠であり、協調して持続可能性を追求する。
- 再生可能なモデルへ生態学的に転換すること。再生可能エネルギーの活用し、生態系を活かした農業であるアグロエコロジーを推進し、循環型経済を発展させる。
- 変革と実践を改善する上で、継続的に改革することが重要である。
- 社会、経済、環境の変化に柔軟に対応するため、毎年、全ての関係者が一堂に会し、共通する新たな成長目標を話し合い、決定する。

当社は、以下を重点的に取り組みます。

- 地域社会と共存する経済的価値の創造
- 健康と幸福として「ウェルビーイング」を追求
- 環境保全政策と持続可能な実践の強化を通じた循環型経済の推進

上記の三つの目標は、自然資源の消費と二酸化炭素の排出を段階的に削減するという当社の活動と融合し、当社のサステナビリティの方針を具体的に示しています。これまでと同様、2025年度も、オルネッライアとマッセートでは、本報告書に記載した原則に沿って活動し、持続可能な未来を目指して着実に目標達成に取り組みます。



1. 環境とワインの生産における持続可能性

オルネッライアとマッセートでは、環境と生物多様性に重点を置き、責任を持った農業の実践、先進的なヴィティカルチャー（精密なブドウ栽培技術）、計画的な資源の使用に取り組んでいます。気候変動への対応として、技術革新とデジタル技術を最大限に活用し、自然資源の利用を最適化するとともに、地域環境を持続可能で、計測可能な方法で保護することを目指しています。セラーでの醸造や瓶詰めにおいても、水とエネルギーを効率的に使用するよう常に管理しています。



2. 倫理性：企業倫理と責任

高い倫理観と道徳観を持ち、常に「正しい」行動を取ります。判断を下す場合、この原則を尊重し、生活の質を向上させ、経済と環境の両面を倫理的、かつ、持続可能な形で統合することを目指します。



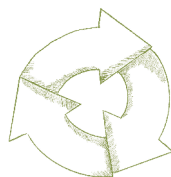
3. 人的要素：人事評価

当社では、お互いを尊重し、多様な人々を受け入れ、ともに協力し、地域社会と協調して成功することを基本としています。当社で中心的な役割を果たすのが人で、健全で体力のある企業の土台を築くうえで欠かせません。当社では、人材育成に投資し、労働者の権利を守り、成長をバックアップし、「幸福を追求する権利」を支援しています。これにより、自分らしく生きるための基盤ができると考えています。



4. 顧客の保護

顧客のニーズを理解するよう全力で臨んでいます。



5. 循環的経済の進展

前述の原則を守り、パートナーと共に循環型経済を創るため、あらゆる協力体制を考慮し、最適化することに取り組んでいます。



6. 品質の追求

最高レベルの品質を目指し、常に努力を怠りません。



7. 技術改革と革新性

最新の生産モデルを分析することで、ワイン生産の各工程に最先端の技術を導入できる可能性を探ります。生産性の高い技術を取り入れることで、高い品質を維持する一方、廃棄物を減らして環境を守る自然保護の両方で、効果が期待できます。



8. 研修の奨励

当社では、持続可能性の原則に従って業務を遂行する意識を高めるため、積極的にスタッフの研修を実施しています。サプライヤーに対しても、当社を介して繋がりがある他の生産部門が認証を取得できるよう、研修の受講を薦めています。



9. 地域の社会的、経済的価値の創生

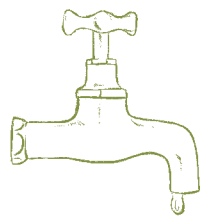
当社は、地元のサプライヤーを積極的に活用し、地域社会の取り組みを支援することで、雇用の創出と経済面の成長を実現しています。

2024年度に達成した目標

2

畑からワインに至るまで、自然資源を利用する上で、最適化、効率化を進め、地域の環境に配慮することで、地域との調和を保つこと。これが、当社が目指す姿です。これを達成するため、全ての活動において、「社会的に公正であること」「環境に安全であること」「経済的に実行可能であること」の3つの要素を考慮した統合的なプロセスを作りました。

生産部門における水使用量の削減

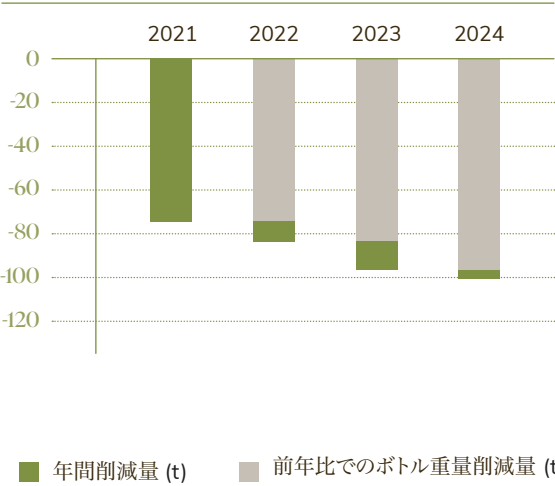


水は、当社のワイン生産工程で欠かせない資源であり、非常に貴重なリソースです。水が無駄なく使うことは、資源を最適に活用しながら、当社が追求する安全性と高い品質を損なうことなく維持するうえで、非常に重要と考えています。僅かな無駄も徹底的に排除し、全ての作業で、水を使うタイミングや方法を見直すことで、水の効率的な利用を実現しました。

マッセティーノのボトルを軽量化し、年間合計3トン削減



ワインの二酸化炭素排出量を算出する上で、ガラス瓶は大きな割合を占めます。輸送工程も考慮すると、ボトルは温室効果ガスの大きな排出源であり、ボトルの軽量化は、微量でも環境に大きなインパクトを与えます。このため、毎年、少しずつボトルの軽量化に取り組んでいます。2024年、マッセティーノのボトルの合計重量を前年より3トン削減しました。



梱包への取り組み

オルネッライアとマッセートでは、持続可能で最適な梱包用素材を選んでいきます。
この観点から、2024年より、PEFC認証(持続可能な森林管理の促進する認証制度)を取得した木箱へ完全に切り替えました。

この木箱は、生物多様性を維持し、自然の成長サイクルを尊重し、非常に高いレベルのトレーサビリティを確保し、適切に管理した森林から木材を供給しています。

二酸化炭素排出削減を目的とした取り組み

エールフランス／KLMとのパートナーシップにより、当社は航空輸送における二酸化炭素排出量の削減に貢献しています。「SAF(持続可能な航空燃料)」の購入プログラムを通じて、チームの移動に伴う「Well to Wake(油田から燃焼までの全過程)」での二酸化炭素の排出量を19.7トン削減しています。

また、DHLとの協力により、DHLが推進する「GoGreenサービス(バイオマス燃料を使用する活動)」を活用することで、合計1.71トンに相当する二酸化炭素の削減を達成しています。



二酸化炭素排出量、および、水資源消費量の第1回目の評価

2024年、オルネッライアとマッセートで、二酸化炭素排出量、および、水資源消費量を初めて算出しました。これにより、自社の環境負荷に対する理解が正確で広範囲に広がり、二酸化炭素排出量と水資源消費量の削減に向けた大きな一歩を踏み出しました。



SQNPI認証の取得

2024年、オルネッライアとマッセートは、イタリアの認証団体が定めた「SQNPI(統合生産に関する国家品質制度)」の認証取得プロセスを完了し、取得しました。これは、環境や人の健康に配慮し、農業等の化学物質をなるべく使わずに、効率よく農作物を育てる方法を取り入れた成果です。この取り組みにより、農産物の価値がさらに高まりました。



WBAの生物多様性認定の取得

2024年、オルネッライアとマッセートは、2年間にわたる土壌調査、および、生物多様性指標の評価を経て、WBAの生物多様性の認証を取得しました。

本認証は、「生物多様性のための10か条(Biodiversity Decalogue)」の遵守を条件とし、土壌の肥沃性の保全、生け垣・森林・草地・蜜源植物の保護、農業生物多様性、農村景観の維持等の具体的な活動を含みます。

本認証を継続的に維持するには、活動を継続し、段階的に改善を進めねばなりません。オルネッライアとマッセートでは、今後も継続的に認証を維持するため、強い意志で臨んでいます。



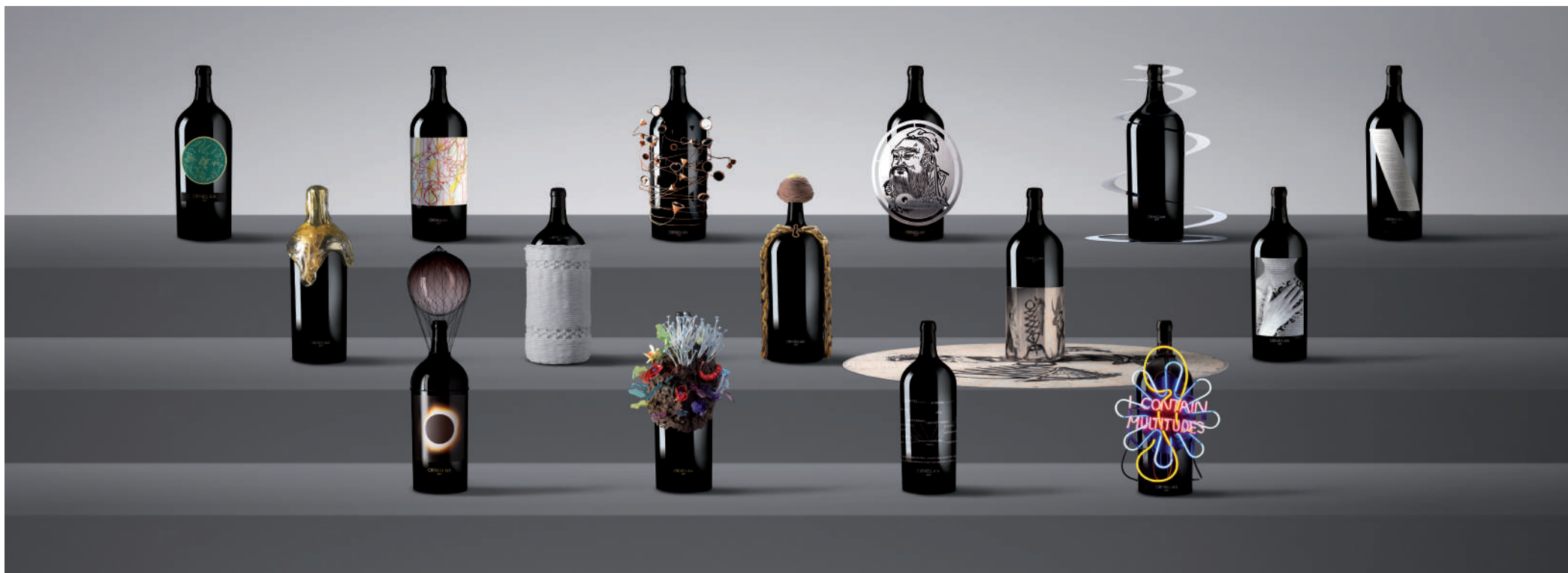
芸術団体や文化協会への寄付と慈善活動

オルネッライアでは、長年にわたり、芸術とワインが融合したプロジェクト、「ヴェンデミア・ダルティスタ」の活動として、毎年、世界的に著名な現代芸術家を一人選び、ヴィンテージの個性を表わすキー・ワードをモチーフに、大型ボトルによる芸術作品を制作し、慈善オークションで販売して多額の寄付金を集めてきました。収益金は、全額、世界各地の芸術や文化支援のために、財団や美術館に寄付しています。これまで、フィレンツェのフレンズ・オブ・フローレンス財団、ロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館、バーゼルのペイラー財団、ロサンゼルス・ハマー美術館に寄付してきました。2019年以降、寄付金はニューヨークのグッゲンハイム美術館、同財団の教育部門が立ち上げ

た「マインズ・アイ」プログラムに充当しています。同プロジェクトは、視覚に障害がある人々が五感を駆使し、言葉や創造的表現を通じて芸術作品を鑑賞するための教育プログラムです。当社の継続的な支援により、本プログラムはニューヨーク、ヴェネツィア、ビルバオの各グッゲンハイム美術館へ広がり、世界中から多数の人々が芸術にアクセスできるようになりました。

同時に、オルネッライアとマッセートは、依存症や難病と向き合う人々を支援する地域の取り組みにも継続的に貢献しています。

2024年度、オルネッライアは33万ユーロ以上を寄付しました。



サステナビリティの基本方針

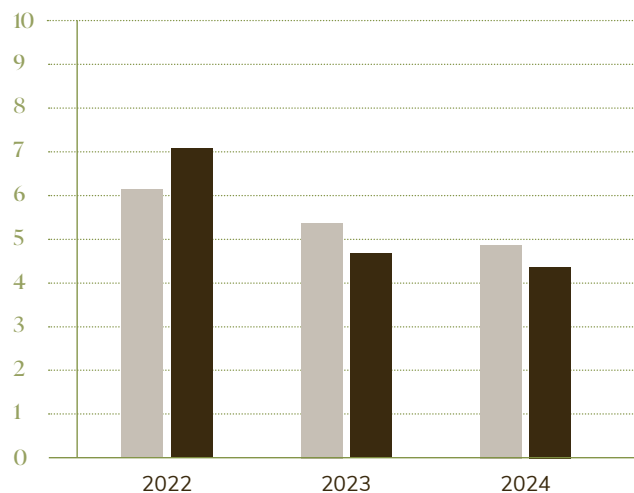
3

サステナビリティの観点から、当社が正しい方向に進んでいることを、以下目標と計測値で報告します。

3.1. 環境的な基本方針

3.1.1 消費量の管理

醸造、および、瓶詰めにおける水の使用量



■ 浸透圧の損失を除いたワイン1リットルあたりの水の使用量:リットル

■ 標準ボトル(750ml)あたりの水の使用量:リットル

水の消費量 資源管理とイノベーション

水の使用状況の分析は、以前から最重要課題でした。特に、ワイン製造工程での容器の洗浄、殺菌、瓶詰め前後の機器の洗浄では、細かく運用を見直しています。水の使用量の削減のため、ワイン業界で広く使っている洗浄剤の使用を段階的に削減しながら、自然資源の利用を最適化すること目標にしています。

瓶詰め工程では、専用の節水計画を策定し、毎日の洗浄サイクルに焦点を当てています。最先端の技術として、CIP (Cleaning In Place 定置洗浄) システムを用いたボトリング用モノブロックの自動洗浄装置を導入しました。この装置は遠隔でも操作でき、本システムにより、精密で的確なモニタリングが可能となり、水の使用量だけでなく、洗浄剤の管理も最適化できています。

本モニタリング・システムにより、オルネッライアとマッセートでは、目標を上回る結果が得られました。具体的には、2023年と比べて水の使用量を9%削減、さらに2022年比では20%を削減できました。現在の水使用量は、ワイン1リットルあたり4.9リットル(浸透圧による損失分は除外)です。

温水供給システムの導入

2024年、ワイナリーに新しい温水供給システムを導入し、洗浄で使用する水の量を変えずに、殺菌剤の使用量を削減することが可能になりました。このシステムは、工程によっては、非常に大きな殺菌効果があり、プロセス全体の品質向上と環境負荷の低減に繋がっています。

電力の消費

2024年の電力使用量は、2023年と比べ、削減できませんでした。ただし、オルネッライアとマッセートでは、以下のように、エネルギー使用のモニタリング・システム、および、最適化するデバイスを設置し、電力削減に向けて取り組んでいます。

- ・ オルネッライアでは、樽貯蔵庫と瓶熟庫の冷却システムにおいて、省エネルギー性能の高い冷却装置と交換し、専用の屋外施設に移動
- ・ マッセート、および、カーサ・マッセートで、空調システムを刷新し、ヒートポンプを新たな省エネルギー型に交換し、オルネッライア同様、専用の屋外施設へ移設

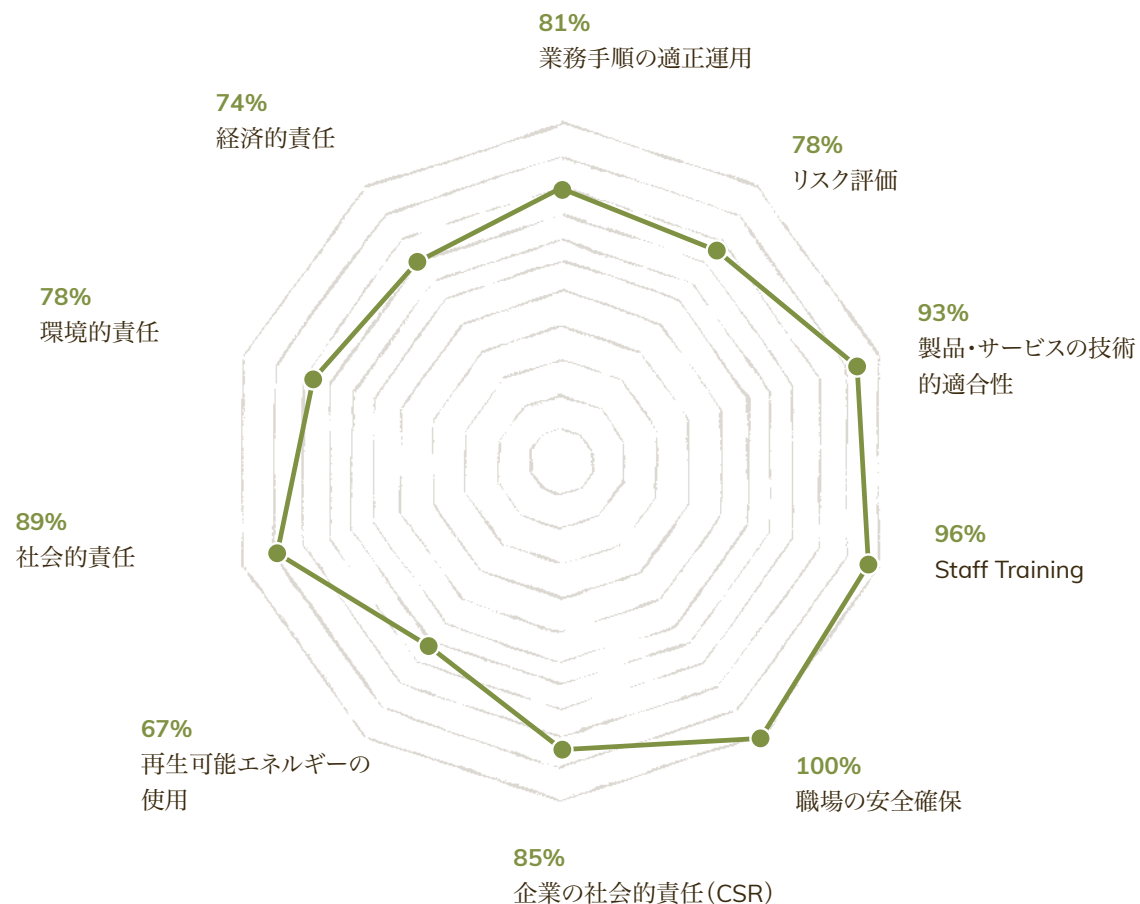
醸造、および、瓶詰めにおける水の使用量

- ・ 浸透圧の損失を除いたワイン1リットルあたりの水の使用量:リットル
- ・ 標準ボトル(750ml)あたりの水の使用量:リットル

3.1.2 サプライヤーによるサステナビリティ評価基準の遵守状況

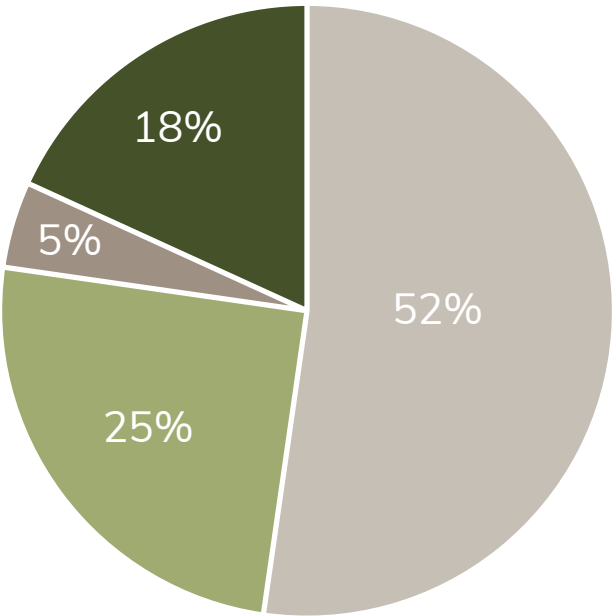
2024年、主要なサプライヤー（取引先企業）の全社に対し、アンケート調査を実施し、2023年度と同様の結果を再確認しました。アンケートの回答を分析して数値化し、右のグラフに載せました。グラフのパーセンテージは、当社同様に、持続可能な取り組みを重視している取引先のパーセンテージを示しています。社会・環境・経済の面からも分析しました。

各評価項目におけるサプライヤーの遵守状況（達成率）：



3.1.3 情報管理とクレーム対応

2024年度に受け付けたクレームは全て処理し、対処しました。総出荷件数は 9,784 件で、苦情の発生率は 0.90% です。クレームの中で、ボトルやネックの破損関連は46件で、2023年の50件から減少しています。破損は全て流通後に発生したもので、カスタマー・サービス／ロジスティクス部門が対応しました。



クレーム総数	88 件	■ 配送せず 16 件
総出荷数	9,784 件	■ 注文と不一致 4 件
クレームの割合	0.90%	■ 配送遅延 0 件
		■ 一部未納 22 件
		■ ボトル／ネックの破損 46 件

3.1.4 内部監査



設定したサステナビリティ基準の遵守状況を監視するため、年間を通じて内部監査を実施しています。

正確で厳密な監査を実施するため、各領域で新たにチェックリストを作成し、以下を重点的に評価しました。

- 品質保証と管理システム
- 畑での栽培のベストプラクティス
- 熟成と瓶詰めにおけるベストプラクティス
- 社会的、経済的な側面のベストプラクティス
- 責任あるコミュニケーション

監査は、関連文書を確認し、各分野に特化したチェックリストを使用して実施し、実践内容の有効性と、基準への適合性の両面から評価しました。このアプローチにより、当社の活動を正確に体系的にモニタリングできるようになりました。

内部監査の結果

監査では重大な不適合は見つからず、目標を高いレベルで順守していることが分かりました。主要な目標は全て100%達成しており、組織として高い水準を保つ意志と体制が整っていることが分かりました。

3.1.5 梱包: 木箱を100%PEFC 認証材に切り替え

森林認証に特化した国際的なプログラムのひとつに「PEFC森林認証プログラム」があります。本プログラムは、独立した第三者による認証を通じて、持続可能な森林管理を推進しています。この認証プログラムは、各国、各地域で適用している認証制度をもとにしており、世界的に信頼されているプログラムです。

PEFC森林認証プログラムでは、森林を以下の基準で管理します。

- 生物多様性、生息環境、自然のサイクルを守る環境基準を満たす
- 森林に関わる地域住民や労働者の福祉を守る社会的基準を満たす
- 森林管理を経済的に持続可能な形で運営する

2024年以降、オルネッライアとマッセートのボトル用の全ての木箱にPEFC森林認証を受けた木材を使用しています。

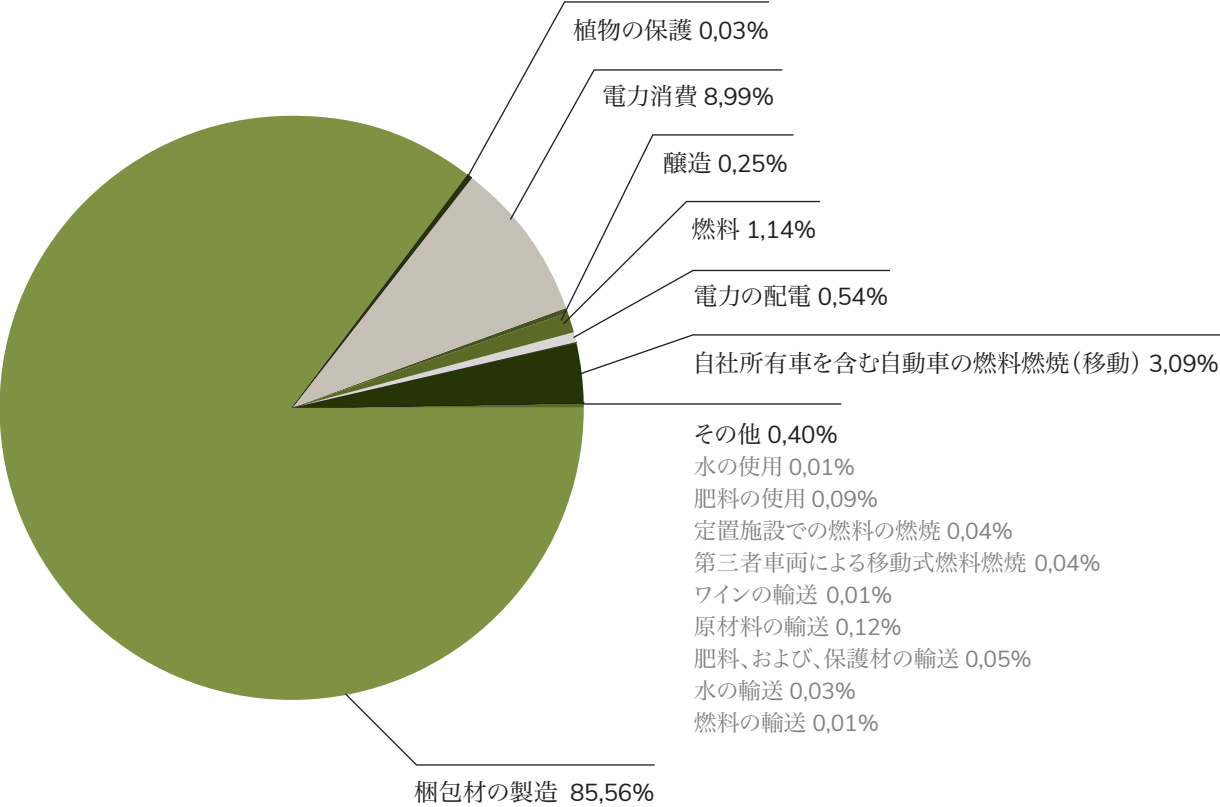
3.1.6 環境保全の測定



2024年度の二酸化炭素排出量と水の使用量を専用のデータ計算ツールで算出しました。この算出ツールにより、オルネッライアとマッセートを含め、環境に与える負荷を毎年、継続的に監視・更新していきます。2024年度に実施した第1回目の二酸化炭素排出量の測定では、二酸化炭素排出の最大の要因は、木箱の製造と輸送であること

が分かりました。特に、製造過程でのエネルギー消費量が多いことと、当社への輸送距離が長いことが主な要因です。今後、既に進めているボトルの軽量化をさらに推進するとともに、梱包素材も、持続可能な代替品に置き換える方針を強化します。

分野別の二酸化炭素排出量と水の使用量(2024年)



3.1.7 製品の安全性、衛生、品質、法令遵守



2023年に題記の運用手順を最新版に更新し、2024年度は変更していません。特に以下は、2023年に改訂した方法を継続しています。

- ・ 醸造施設と瓶詰めラインの洗浄方法
- ・ 酵母や清澄剤等の醸造用製品、および、醸造タンクでの洗浄剤の使用方法

制定した手順を順守することで、生産プロセスの全工程で、衛生基準、安全性、透明性の要件を満たしています。また、ワインの品質も最高水準で維持しています。醸造からボトリングに至る全工程で常に情報を追跡し、法令を遵守していることをモニタリングしています。

システム管理 企業パフォーマンス：進捗状況の分析

A) 不適合項目と是正処置

2024年は、複数種類の不適合が発生しました。不具合は、TCA(コルク臭)やコルク栓に対するクレームが中心です。

クレームのうち、数件に対し、是正措置プロセスを実施しました。具体的な対策として、ボトルが入手できた場合、製造チームが原因究明のため対象ボトルのワインに官能評価を実施しました。分析対象のボトルを入手できなかった場合、カスタマー・サービスチームが対応を引き継ぎ、必要に応じて部分的な返金や全額を返金しました。

B) クレーム対応

2024年度に寄せられた全てのクレームには誠意をもって対処し、解決しました。クレームの大多数は流通過程の最終段階で発生したもので、ロジスティクス部門、および、カスタマー・サービス部門が主導して対応しました。

C) 環境保全の基本方針の遵守

環境保全の方針遵守の観点から、製造チームは衛生管理、および、梱包において、最適な解決策を策定するため基準を設定しました。

- ・ マッセティーノのボトルの重量を軽量化し、ガラスを3トン削減しました。
- ・ この取り組みは2021年に始まり、ボトルの重量を段階的に減らす長期プロセスです。
- ・ これまで、合計100トンのガラスの削減を達成しました。

製造現場での洗浄、衛生管理のプロセスや梱包の基準は全て、効率、環境への配慮、持続可能性という原則に基づいて判断しています。

3.1.8 資源の適正配備： 設備、施設、人材



オルネッライアとマッセートでは、以下の分野で十分にリソースを確保していると考えています。

- **設備と機械**

設備と機械では全て、計画的な保守管理スケジュールに従って定期的に点検・整備し、機器のライフサイクル分析に基づいて適切なタイミングで交換しています。

- **施設**

生産の全工程で現在の施設は十分に機能しており、関係する品質と数量の基準にも適合しています。

- **人材(従業員)**

従業員は、運用手順に関し定期的に研修を受けています。現行の法的要件に沿った指導も実施します。基本的な研修に加えて、特定の部門では、スキルの維持・向上を目的とし、年単位の専門研修も実施しています。

オルネッライアとマッセートでは、今後の数年で見込んでいる生産量の増加に対応するため、既存施設の利用状況を細かくモニタリングしています。その一環で、2023年に導入した改善計画を進めています。この計画には、作業エリア、機械設備、関連サービスを含めた生産スペースの拡張や改修も含まれます。現在、経営陣がこの計画の内容を検討中であり、今後3年間の計画立案に反映させる予定です。

3.1.9 コンピュータ・システムによるデータ管理、環境関連情報、エネルギーの使用と分析

- エネルギー使用量のデータは、電力会社の自動モニタリング・システムから直接取得しています。水の使用量のデータ収集は、2023年6月にモニタリング・システムを稼働させ、初期のテスト運用を完了しました。2024年5月以前は水道料金明細の数値を使用し、以降は新しい測定機器のデータを用いています。この数値は、主配管の流量計の読み取りデータと照合しています。
- 水の使用状況をチェックするため、オルネッライアでは、建物内に流入する水量を計測するメイン・メーターを使い全体の消費量を見積もっています。また、水資源を効率的に管理するため、ワイナリー内の重要なエリア6箇所に制御用の計測ポイントを設置しました。
- 本コンピュータ・システムでは、機械設備、配電盤、作業エリア、照明設備等、50箇所に分散させたポイントで電力を測定しており、エネルギー消費量を正確に把握しています。さらに、システムの高度な機能により、水や電力の浪費を詳細に分析し、資源の使用効率を高め、全体の運用効率を向上させています。



3.2. 社会的な基本 方針



職業訓練

年間を通じ、法令で義務づけている研修を全て実施し、各従業員の研修履歴を記録リストに登録して一元管理しています。研修活動を効率的に、かつ、透明度を上げて管理するため、年間の研修予定を可視化できる予定一覧を作成し、各メンバーが自身の年間研修スケジュールを確認できるようにしています。

研修スケジュールは、社内の掲示板に掲示するとともに、オンラインでもリアルタイムで確認が可能です。これにより、従業員は自分が受ける研修やプログラムを事前に把握でき、研修の計画と運営が円滑に進んでいます。

必須研修に加えて、各部門の特定スキル向上を目的とした任意の研修も実施しました。

- 専門資格取得のための技術研修 (WSET や AIS など)
- 語学力向上のための語学講座
- 業界に関連した専門分野についてのコンサルティング

さらに、全従業員を対象に特別な研修セッションも設定し、以下のテーマを取り上げました。

- 各種認証の最新状況と進捗の報告
- 2023年サステナビリティ報告書に記載した成果
- 2024年に予定している活動と、現時点での達成済み目標の確認 (2024年版報告書に先立つ内容)

2025年までの5ヶ年投資計画

総額:220万ユーロ
2025年までに承認された投資計画

生産面の活動として、省エネルギー型の暖房・冷却設備の導入、エネルギー消費を監視・分析するシステムの整備、設置済みの生産設備の改修、廃棄物の回収・処理システムの改善に投資します。地域社会での活動として、芸術の支援、地域貢献、依存症や病気と向き合う人々への支援に寄付金を拠出します。あわせて、社員へのボーナスや福利厚生を含む企業福祉制度も実施します。これにより、社会的責任と社内の働きやすさの両立を図ります。



2025年までの達成目標の現状

4

2025年までの達成目標の現状

1.	ボトル重量の削減 目標：300トン削減	現在の達成率：33%
2.	水の使用量の削減 目標：20%削減	現在の達成率：100%
3.	LED照明への交換 目標：100%達成	現在の達成率：100%
4.	電気自動車やハイブリッド車への転換	現在の達成率： 20%
5.	太陽光発電パネル設置面積の拡大	これから着手予定

オルネツライアとマツセートのサ ステナビリティ委員会

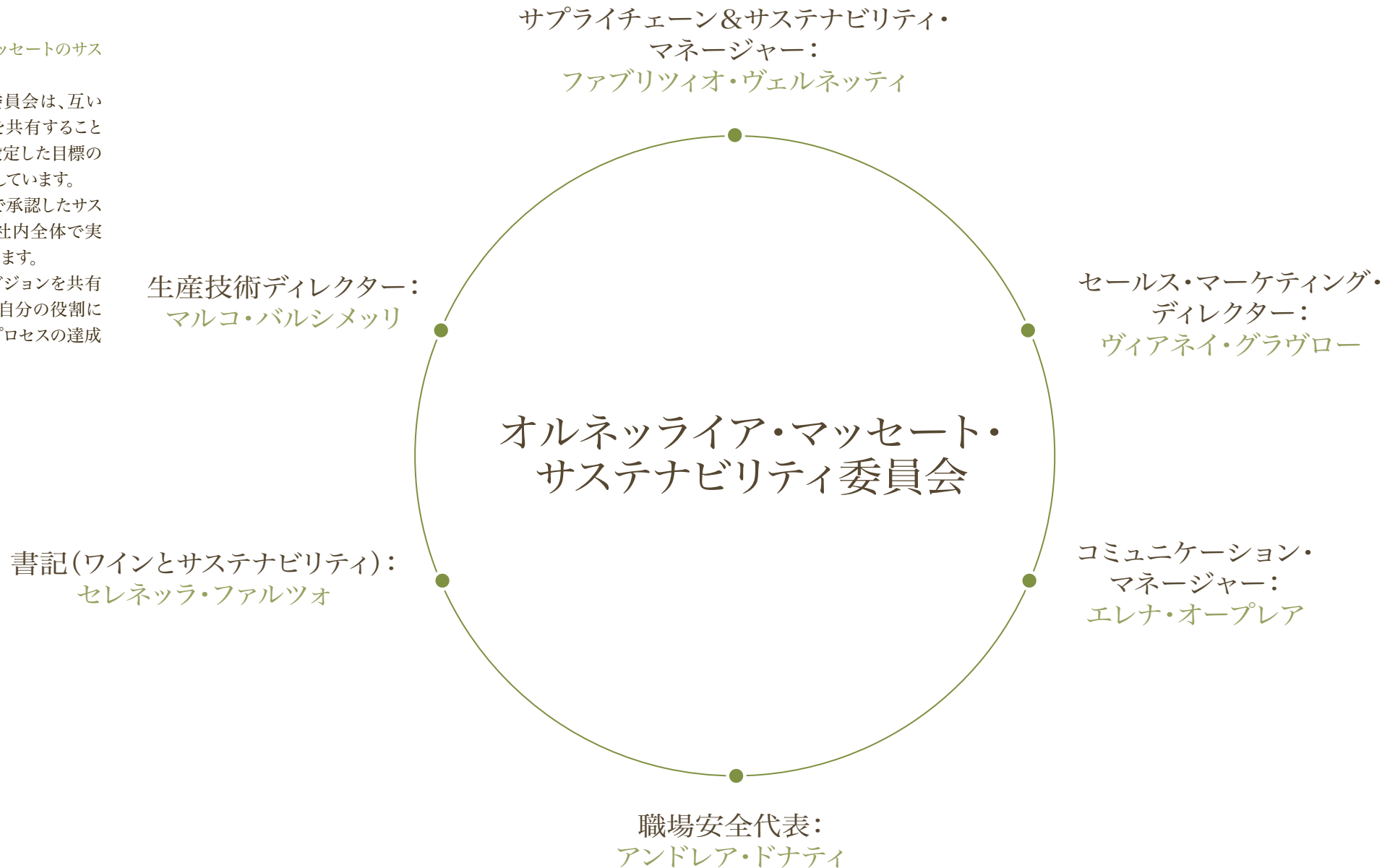
5

オルネッライアとマッセートのサステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は、互いを尊重し、価値観を共有することを基本概念とし、設定した目標の達成に向けて活動しています。

本委員会は、予算で承認したサステナブルな活動を社内全体で実行しているか確認します。

また、全従業員がビジョンを共有することで、各人が自分の役割に責任を持ち、実行プロセスの達成率を高めます。







ORNELLAIA



MASSETO



SISTEMA DI QUALITÀ NAZIONALE
PRODUZIONE INTEGRATA